

# 慈明院寺報十二月号

## 因幡の白兔



昔々、沖の小島に住む一匹のウサギがおりました。ウサギは対岸の大きな陸地に渡ってみたいと思い、海に住むサメに問いかけました。「どちらの仲間が数が多いか、勝負しよう。対岸の陸地までならんでおくれ。」サメは面白いと仲間を集めてならびました。

ウサギはしめしめとサメの背を飛び移り、対岸の島を目指します。あと少しで対岸に着くという時に、ウサギは口を滑らせて「やーい、だまされたな。」とサメをからかいます。怒った最後のサメに捕まったウサギは、毛や皮をはがれ痛々しい赤裸のウサギになってしまいました。

因幡の浜でウサギが泣いていると、たくさんのお客さんが通りかかりました。その神様たちは、因幡の国の八上姫に求婚を申し込む一団でした。その中の一人の神様が「ウサギよ、海水で体を洗い、風で乾かすと良い。」と教えました。ウサギがその通りにすると、体じゅうがヒビ割れてもっと苦しくなりました。神様はウサギにウソを教えて面白がっていたのでした。ウサギはたまらず泣きだします。するとそこへ、先に行ったたくさんのお客さんが荷物をかかえた末の弟である大国主命という神様が、ウサギを憐れんで「川の真水で体を洗い、ガマの穂を敷いてその上に寝転びなさい。」と教えました。

ウサギがいう通りにすると、すっかり毛並みが戻り白いウサギになりました。ウサギは、八上姫はきつと大国主命と結婚するでしようと予言して、優しい大国主命は八上姫と結ばれましたとき、めでたしめでたし。

この話、古事記にある神話なのだが実は史実を描いているという。サメは海賊を表し、白ウサギはその海賊と戦った因幡の豪族を表しているという。負けそうな因幡の豪族に力を貸して、大国主命が因幡の姫を娶った話だそう。それが神話となり、ウソの因果応報を教える法話となった。

住職 合掌

## 新年のご案内 初大黒天 護摩祈願法会

正月元旦、恒例の「令和五年 初大黒天 護摩祈願法会」を左記日時にて奉行致します。皆様のご参拝をお待ちしております。（詳しくは別紙参照）

一番座 一月一日 午前0時より（大晦日の夜中 十二時より）

二番座 一月一日 午後二時より（正月元旦のお昼 二時より）

\* 古いお札・お守り等、当日お持ち下さい。後日 焼供養致します。

\* 紅白もち、縁起物のお菓子をお接待致します。

## （来年）令和五年の年忌について

来年 令和五年に年忌を迎えられる仏様の亡くなられた年の一覧です。参考にして頂き、法事の希望などございましたら、電話でご連絡下さいませ。

一周忌	令和四年	逝去
三回忌	令和三年	〃
七回忌	平成二十九年	〃
十三回忌	同二十三年	〃
十七回忌	同十九年	〃
二十三回忌	同十三年	〃
二十五回忌	同十一年	〃
二十七回忌	同九年	〃
三十三回忌	同三年	〃
三十七回忌	昭和六十二年	〃
五十回忌	同四十九年	〃
七十回忌	同二十九年	〃
百回忌	大正十三年	〃

\*（昭和六十四年）は（平成元年）、（平成三十一年）は（令和元年）と同年。

慈明院

〒八一一一三 福岡市早良区大字西二三四一（二〇）

TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四